

ボランティアの在り方

F7班

問題提起

今、日本のボランティアの在り方が問い直されている。2
020東京オリンピックによって

真夏の東京、炎天下の中、過酷な労働を強いられるだけでなく、
スポーツドクターや翻訳者までも無給で働かせようというのだ。
過酷な環境で人を動かしている。
責任をとるためにも、お金を払うべきだ

そこで私たちは、「有償ボランティア」に着眼し、
その実態を調べることにした

「有償ボランティア」とは

有給労働

ほかの市場と同等の賃金

有給労働度大
ボランティア度大

低賃金の有給スタッフ

有給スタッフのサービス残業

勤務時間内ボランティア

ボランティア

2 - 1 日本における有償ボランティアの例

有給労働的ボランティア

「神戸ライフ・ケア協会」が1983年に在宅福祉サービスのシステムとして、施設に入らなくてもよい高齢者のために有償ボランティアを利用した。

ここでは、在宅ケアに協力する住民に、1時間当たり360円を支給したそうだ。
尼崎北の高齢者介護のグループ「ほほえみ」は有償ボランティアを導入するときの利点として介助申込者と奉仕会員**双方の気持ちを有償という形で表せば、お互いに対等かつ精神的自由な立場になれる。**とある。

実質受給ボランティア

やはり、日本では介護のような需要が多いサービスでは、人手不足が深刻なようだ。
確かに、家の周りの介護施設ではいつも介護士の募集をしている。

純粹無給ボランティア

↑
金銭的報酬の大小
↓

日本の現状



有償ボランティアで



人材不足
解消

まとめ・結論

大災害など、多くの方が被害にあってしまった場合には、無償ボランティアが成立しても問題はない。
しかし、こういった人の積極性は金銭という形で買うほかない。また、人対人の労働であっても報酬におけるサービスの差は歴然としたものである。
有償ボランティアは、人と人とのWinWinの関係におかれるための手段の一つとして用いられるべきである。

結果 考察

有償にすべきボランティア

清掃作業などの重労働

スポーツ競技における指導、会場の警備、運営。

人材不足の介護などの双方の関係も重視されるボランティア

やはり、有償ボランティアが必要なものは、需要は多いが、供給が少ないものである。

無償ボランティアが成立しやすい場合は、災害が大規模かつ甚大な被害が多くの人に及んだ場合が大半である。大地震や台風などによる停電、断水などが続くときであろう。多くの日本人の持つ「思いやり」のような意思が、同じ意思を持つ大きな集合体の中で増長し損得感情ではなく、自分は貢献したのだという達成感のもとに動いているのだと考える。

さらに、身近なところにも有償ボランティアは存在している。例えば、草野球の審判の人は、審判で生計を立てているわけではないが、謝礼を受け取っている場合がある。これは、有給労働とまでは言えないが、有償ボランティアといえるのではないだろうか。

このように、支援する側、される側双方が納得のいく活動にするためにも、ボランティアの有償化は有効的である。このポスターを見て、少しでも有償ボランティア、ひいては日本のボランティアの未来に興味を持っていただければ幸いだ。

参考文献

「有償ボランティア」という働き方 <https://www.jil.go.jp/institute/rodo/2005/documents/rep003.pdf>
『有償ボランティアはおかしい』という意見に対して反論あり <https://wonderfulblog.net/?p=1702>
ボランティアは無償労働の代名詞ではない <https://togetter.com/li/829777>